

令和6年度 第17回大阪湾生き物一斉調査について

1. 調査概要

令和6年度は、6月8日を中心に、大阪湾沿岸域の23地点（アマモ場等調査5地点を含む）と大阪湾内（スナメリ調査）において、30団体、1,385名が参加して、第17回大阪湾生き物一斉調査を実施しました。調査地点及び担当団体等は図1に示すとおりです。

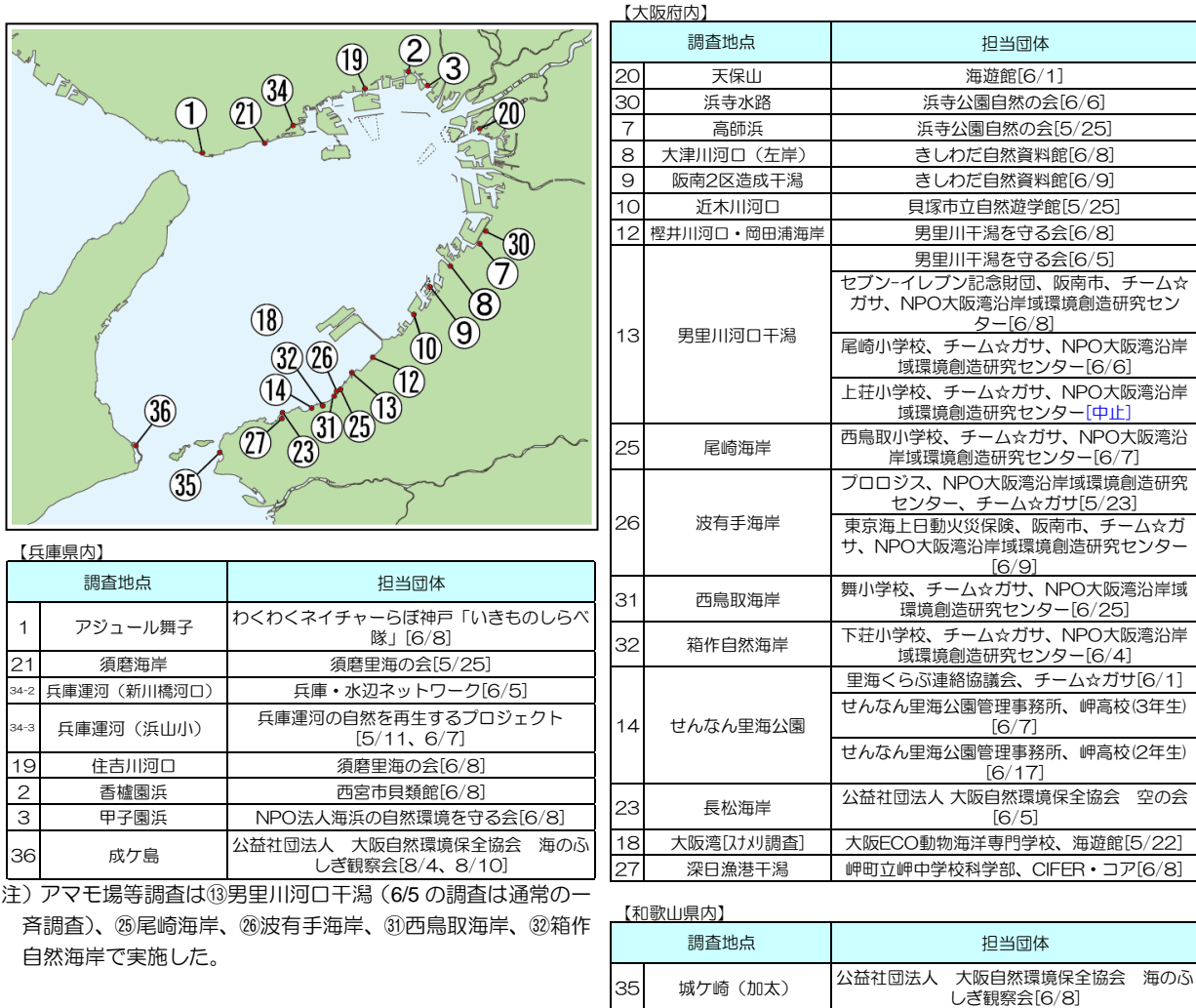


図1 令和6年度の調査地点一覧

【大阪湾海岸生物ウェルカムリスト（無脊椎動物・海藻・海草、2022年版）※】

大阪湾海岸生物ウェルカムリストとは、大阪湾の環境改善や干潟・藻場等の整備等のおお阪湾再生の取り組みにより、大阪湾において、今後、新たに定着あるいは分布範囲の拡大を期待する生物種を選定したリストのことです。以下のとおりランク付けしています。

- A：大阪湾内では近年（1950年代以降）の記録が無い（ただし近隣海域では記録されている）か、記録がごく限られていて、生育・生息基盤が脆弱であると考えられる種。〔目安として、文献等による記録・情報が0～2箇所以下〕
- B：大阪湾内では産地が限られていて、今後分布の拡大が期待される種。〔同3～5箇所〕
- C：大阪湾内では多数の地点で記録され、かつ良好な環境（水質・底質・地形）*の目安となる種。〔同6箇所以上〕

*大阪湾再生行動計画（第二期）では、目標要素「豊かな魚庭（なにわ）の海」の施策の一つとして、「藻場、干潟、浅場、緩傾斜護岸等の整備」を掲げています。

このため、大阪湾再生行動計画に基づいて取り組まれている湾内の水質改善と干潟、砂浜、藻場、浅場、親水護岸等の整備によって期待される生物にとって好ましい環境を対象としました。

2. 出現種

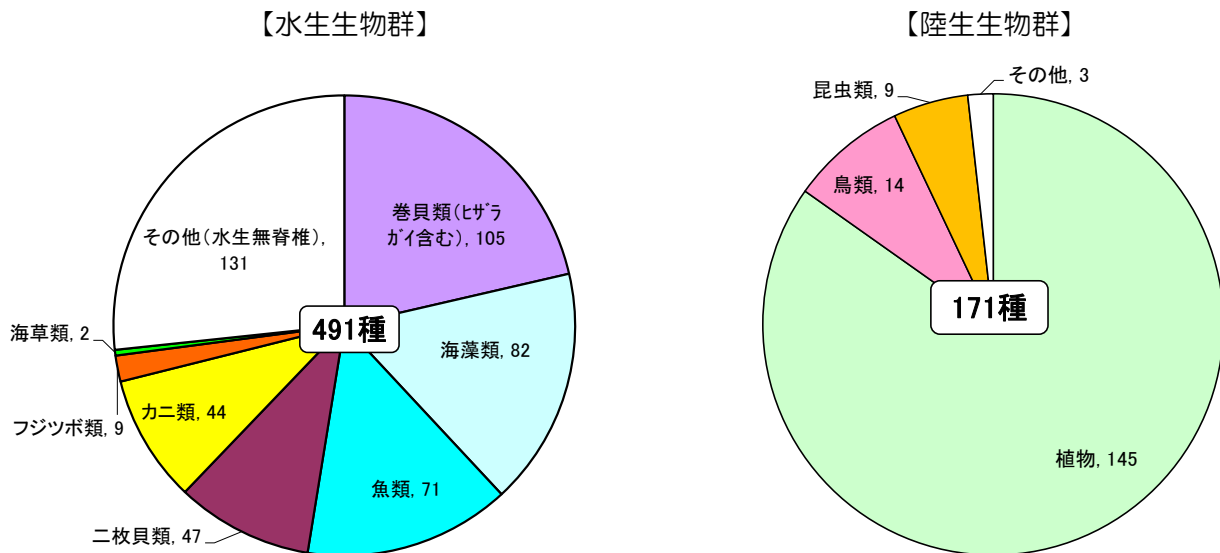
本年度の大阪湾生き物一斉調査によって確認された出現種を図2、表1に示しました。

種名まで判別した種類は全体で662種（うち、調査シート掲載種43種）でした。

全体の出現種については、水生生物群では、海藻類及び海草類が84種、動物は貝類が152種（巻貝105種、二枚貝47種）、魚類が71種、カニ類が44種等でした。また、陸生生物群では、陸上植物が145種、鳥類が14種、昆虫類が9種等でした。

出現種のうち、大阪湾海岸生物ウェルカムリストに該当した種類は、Aランクが海藻類のエナシダシア、アナジャコ類のアナジャコ、エビ類のヒラツノモエビの3種、Bランクが海藻類のカゴメノリ、海草類のコアマモ、貝類のイボウミニナ、クログチガイ、カニ類のシオマネキ、エビ類のツノモエビ等の17種、Cランクが海草類のアマモ、貝類のアラムシロガイ、イワガキ、カニ類のアカテガニ等の50種で、合計70種でした。

出現種のうち特筆すべき種として、兵庫県、大阪府、水産庁、WWF、干潟の絶滅危惧動物図鑑の各RDBと環境省のレッドリスト（2020年）に掲載されている種に該当するものを付表1に示しました。全体の貴重種としては85種類（属含む、陸生種除く）が該当しました。このうち、海藻・海草類はスジアオノリ、アマモ等の4種、動物では、貝類がアマガイ、バテイラ等の44種、多毛類がタマシキゴカイの1種、ヤドカリ類がテナガツノヤドカリの1種、カニ類はオサガニ、ハクセンシオマネキ、マメコブシガニ等の19種、魚類はアユ、トサカギンボ等の3種、その他はニホンスナモグリ、ヒモイカリナマコ等の10種等でした。



注) 1. 数字は種数を示す。

2. 陸生生物群の「その他」は爬虫類、両生類、陸生無脊動物を含む。

図2 令和6年度出現種の分類群別種数（全体）

表1(1) 令和6年度出現種一覧

分類群	No.	和名・種名	WL	分類群	No.	和名・種名	WL		
海藻類	緑藻類	1	アオサ属(アオサ型)		海藻類 (続き)	紅藻類 (続き)	78	ビリヒバ	
		2	アオサ属(アオリ型)				79	フクロフリ	
		3	アナアオサ				80	フシツナギ	
		4	ウスバアオノリ				81	フダラク	
		5	オオハイミル				82	マクサ	
		6	カイゴロモ				83	マツノリ	
		7	シオグサ属				84	ミゾオゴノリ	
		8	スジアオノリ				85	ミツデソソ	
		9	ツヤナンシオグサ				86	ムカデノリ	
		10	ハネモ				87	ユカリ	
		11	ヒラアオノリ				88	ユナ	
		12	ボウアオノリ				89	ワツナギソウ	
		13	ホソジュズモ				90	無節サンゴモ類	
		14	ボタンアオサ				91	藍藻綱	
		15	ミル						
		16	リボンアオサ						
海藻類	褐藻類	17	カゴメノリ	B	海藻類		1	アマモ	C
		18	ツルモ				2	コアマモ	B
		19	アカモク		植物		1	アイアシ	
		20	アミジグサ			2	アオツツラフジ		
		21	イシゲ			3	アカメガシワ		
		22	イソモク			4	アキニレ		
		23	イワヒゲ			5	アキノノゲシ		
		24	ウミウチワ			6	アキノミチヤナギ		
		25	ウミトラノオ			7	アゼトウナ		
		26	カジメ			8	アメリカオニアザミ		
		27	カヤモノリ			9	アメリカセンダングサ		
		28	サナダグサ			10	アメリカネナンカズラ		
		29	シオミドロ属			11	アメリカフウロ		
		30	シダモク			12	アレチギシギシ		
		31	シワヤハズ			13	アレチハナガサ		
		32	タマハハキモク			14	アロエ属		
		33	ネバリモ			15	イタドリ		
		34	ヒジキ			16	イヌガラシ		
		35	フクロノリ			17	イヌホオズキ		
		36	ヘラヤハズ			18	イヌムギ		
		37	ホンダワラ			19	イヨカズラ		
		38	ホンダワラ科			20	ウスベニツメクサ		
		39	マメタワラ			21	エノキ		
		40	ヨレモクモドキ			22	エノコログサ		
		41	ワカメ			23	オオアレチノギク		
		42	アマノリ属			24	オオイヌタデ		
		43	イギス			25	オオオナモミ		
		44	イソダンツウ			26	オオシマザクラ		
		45	イバラノリ			27	オオブタクサ		
		46	エチゴカニノテ			28	オカヒジキ		
		47	エナシダジア	A		29	オシロイバナ		
		48	オオオゴノリ			30	オッタチカタバミ		
		49	オオバツノマタ			31	オニウシノケグサ		
		50	オキツノリ			32	オニシバ		
51	オゴノリ		33	オニヤブソテツ					
52	オゴノリ属		34	オヤブジラミ					
53	オバクサ		35	カナムグラ					
54	カイノリ		36	カモジグサ					
55	カニノテ		37	カラクサナズナ					
56	カバノリ		38	カラスノエンドウ					
57	キョウノヒモ		39	カラスムギ					
58	コスジフシツナギ		40	ギシギシ					
59	コメノリ		41	キュウリグサ					
60	シキンノリ	B	42	ギョウギシバ					
61	ショウジョウケノリ		43	クコ					
62	シラモ		44	クサイチゴ					
63	スギノリ		45	クサスキカズラ					
64	ススカケベニ		46	クズ					
65	タオヤギソウ		47	クスノキ					
66	タチイバラ		48	グミ属					
67	タンバノリ		49	コウボウシバ					
68	ツノマタ		50	コウボウムギ					
69	ツルシラモ		51	コメガヤツリ					
70	ツルツル		52	コセンダングサ					
71	トサカマツ		53	コバナタツナミソウ					
72	ナミノハナ		54	コハンソウ					
73	ニクムカデ		55	コマツナギ					
74	ヒトツマツ		56	コマツヨイグサ					
75	ヒメテングサ		57	コメツブウマゴヤシ					
76	ヒライボ		58	コモチナデシコ					
77	ヒラムカデ		59	ゴウアケビ					
			60	サナエタデ					
			61	シオクグ					

注) 1) 種類の記載順は各分類群の中で五十音順。アルファベットは先頭。
 2) WL 欄は大阪湾海岸生物ウエルカムリストの区分を示す。
 3) : 種まで同定されていないもの(種数に含めない。ただし、カニ類のヒライソガニ属は単一種とする)

表1 (2) 令和6年度出現種一覧

分類群	No.	和名・種名	WL	分類群	No.	和名・種名	WL		
植物 (続き)	62	シナダレスズメガヤ		植物 (続き)	139	メキシコマンネングサ			
	63	シバ			140	メヒシバ			
	64	シマスズメノヒエ			141	メマソヨイグサ			
	65	シャリンバイ			142	ヤエムグラ			
	66	シラカシ			143	ヤノネボンテンカ			
	67	シロザ			144	ヤブジラミ			
	68	シロツメクサ			145	ヨウシュヤマゴボウ			
	69	スイバ			146	ヨシ			
	70	ススキ			147	ヨシノヤナギ			
	71	スズメノチャヒキ			148	ヨモギ			
	72	セイタカアワダチソウ			149	ランタナ(シチヘンゲ)			
	73	セイバンモロコシ			貝類	ヒザラガイ類	1	ウスヒザラガイ	
	74	セイヨウカラシナ					2	ウスヒザラガイ科	
	75	センダン					3	クサズリガイ	
	76	タイトゴメ					4	ケハダヒザラガイ	
	77	ダンチク					5	ニシキヒザラガイ	
	78	チガヤ					6	ババガセ	
	79	ツキミマンテマ					7	ヒザラガイ	
	80	ツゲ					8	ヒメケハダヒザラガイ	
	81	ツメクサ		9			ヤスリヒザラガイ		
	82	ツルナ		巻き貝類		10	アオウミウシ		
	83	ツワブキ				11	アオガイ		
	84	テリハノイバラ				12	アオガイ属		
	85	トウカエデ				13	アカエラミノウミウシ		
	86	トウネズミモチ				14	アカニシ		
	87	トゲヂシャ				15	アンヤガイ		
	88	ナガバギシギシ				16	アマオブネガイ		
	89	ナガミヒナゲシ				17	アマガイ		
	90	ナギナタガヤ			18	アマクサアメフラシ			
	91	ナヨクサフジ			19	アメフラシ			
	92	ナルトサワギク			20	アラムシロガイ	C		
	93	ナンキンハゼ			21	アラレタマキビガイ			
	94	ネズミホソムギ			22	インダタミガイ			
	95	ネズミムギ属			23	イシマキガイ	C		
	96	ノイバラ			24	イズミドリガイ			
	97	ノゲシ(ハルノノゲシ)			25	イソニナ			
	98	ノブドウ			26	イナザワハベガイ	C		
	99	ノボロギク			27	イボウミニナ	B		
	100	ノミノツリ		28	イボタマキビガイ				
	101	ノラニンジン		29	イボニシ				
	102	ハマアザミ		30	ウネボラ				
	103	ハマウド		31	ウノアシガイ				
	104	ハマエンドウ		32	ウミナメウジ	C			
	105	ハマオモト(ハマユウ)		33	ウミニナ	C			
	106	ハマゴウ		34	ウミフクロウ				
	107	ハマサジ		35	エソキセワタ属				
	108	ハマスゲ		36	エビスガイ属				
	109	ハマダイコン		37	オオヘビガイ				
110	ハマツメクサ		38	オカダウミウシ					
111	ハマナデシコ		39	オトメウミウシ					
112	ハマヒルガオ		40	オトメガサ					
113	ハマボウ		41	カスリアオガイ					
114	ハマボウフウ		42	カノコキセワタ近似種					
115	ハマボッス		43	カラマツガイ					
116	ハママツナ		44	カワザンショウガイ科					
117	ヒエガエリ		45	カワニナ					
118	ヒメジョオン		46	キクスズメガイ					
119	ヒメフタナ		47	キクノハナガイ					
120	ヒメムカシヨモギ		48	キサゴ属					
121	ピラカンサ		49	キヌハダウミウシ					
122	ヒルザキツクミソウ		50	キヌボラ					
123	フタナ		51	クチキレガイ					
124	フチベニベンケイ		52	クビレクロツケガイ					
125	ヘクソカズラ		53	クモリアオガイ					
126	ホウキギク		54	クリイロカワザンショウ	C				
127	ホコガタアカザ		55	クリイロカワザンショウ属					
128	ホソバアキノノゲシ		56	クリフレイシガイ					
129	ホソバハマアカザ		57	クロシタナシウミウシ					
130	ホソムギ		58	クロスジムシロガイ近似種					
131	ポントクタデ		59	クワツケガイ					
132	マサキ		60	クロヘリアメフラシ					
133	マツバゼリ		61	クロミドリガイ					
134	ママコノシリヌグイ		62	コウダカアオガイ					
135	マメゲンバイナズナ		63	コウダカマツムシ					
136	マンテマ属		64	コガモガイ					
137	ミチヤナギ		65	コゲツノフエガイ	B				
138	ムラサキカタハミ		66	コシダカガンガラ					

注) 1) 種類の記載順は各分類群の中で五十音順。アルファベットは先頭。

2) WL 欄は大阪湾海岸生物ウエルカムリストの区分を示す。

3) : 種まで同定されていないもの(種数に含めない)。ただし、カニ類のヒライソガイ属は単一種とする

表1 (3) 令和6年度出現種一覧

分類群		No.	和名・種名	WL	分類群	No.	和名・種名	WL		
貝類 (続き)	巻き貝類 (続き)	67	コビトウラズガイ		貝類 (続き)	二枚貝類 (続き)	28	チリハギガイ	B	
		68	コベルカニモリガイ				29	トマヤガイ		
		69	ゴマフホラダマシ				30	ナミマガシフガイ		
		70	コモレビコガモガイ				31	ニッポンマメアゲマキガイ	B	
		71	サザエ				32	バカガイ	C	
		72	サツマクリイロカワザンショウ	C			33	ハボウキガイ	C	
		73	シボリガイ	C			34	ヒバリガイ		
		74	シマメノウフネガイ				35	ヒバリガイモドキ		
		75	シマハマツボ				36	ヒメアサリ		
		76	シロウミウシ				37	ヒメカノアサリ	C	
		77	スオウクチキレガイ				38	ヒメシラトリガイ	C	
		78	スガイ				39	フクユキミノガイ		
		79	スズメハマツボ				40	ホトギスガイ		
		80	タマキビガイ				41	ホンビノスガイ		
		81	テグサガイ				42	マガキ		
		82	テグサガイ属				43	マツカセガイ		
		83	ツメタガイ	C			44	マテガイ	C	
		84	ツメナリミヤコドリガイ				45	マルミエガイ		
		85	トコブシ				46	ミドリガイ		
		86	トロウミウシ				47	ミエガイ		
		87	ナギサノシタリ	B			48	ムラサキガイ		
		88	ハテイラ				49	ムラサキガイ	B	
		89	ヒメコザラガイ				50	ユウシオガイ	C	
		90	ヒメムシロガイ				多毛類	1	Cirriiformia属(スズキゴカイ科)	
		91	ヒメヨウラクガイ				2	Harmothoe属(ウロコムシ科)		
		92	ヒモイカリナマコツマミガイ	C			3	Serpula属(カンザシゴカイ科)		
		93	ヒラスカシガイ				4	Spirobranchus属(カンザシゴカイ科)		
		94	ヒラミドリガイ				5	Terebella属(フサコカイ科)		
		95	ヒロウミウシ				6	Thelepus属(フサコカイ科)		
		96	フジエラミノウミウシ				7	アシナガゴカイ		
		97	ブドウガイ				8	アミメオニスビオ		
		98	フトコロガイ				9	イワムシ属		
		99	フトヘナタリ	C			10	ウズマキゴカイ科		
		100	フレリトゲアメフラシ	C			11	ウロコムシ科		
		101	ベッコウガサガイ				12	エソカサネカンザシゴカイ		
		102	ボサツガイ				13	オトヒメゴカイ		
		103	ホソウミニナ	C			14	カサネカンザシゴカイ		
		104	ホソシリアオガイ				15	カニヤドリカンザシゴカイ		
		105	マダラウミウシ				16	カンザシゴカイ科		
		106	マツバガイ				17	クマドリゴカイ		
		107	マルウスズラタマキビガイ	C			18	クマノアシツキ		
		108	マンリョウウミウシ				19	ケヤリムシ		
		109	ミノウミウシ垂目				20	ゴカイ科		
		110	ミヤコドリガイ	C			21	コケゴカイ近似種		
		111	ムギガイ				22	サシバゴカイ科		
		112	メダカラガイ				23	サミドリサンバ		
		113	ヤツデヒトデヤドリニナ				24	サンハチウロコムシ		
		114	ヤマトウミウシ				25	スピオ科		
		115	ヨメガカサガイ				26	タマシキゴカイ	C	
		116	レイシガイ				27	タマシキゴカイ科		
		二枚貝類	1	アオカリガネガイ		28	チロリ科			
			2	アコヤガイ		29	ナデシコカンザシゴカイ			
			3	アサリ		30	ヒゲトゴカイ			
			4	アズマニシキ		31	フサウスウロコムシ			
			5	イタボガキ科		32	フサゴカイ科			
			6	イタボガキ属		33	マサゴゴカイ			
			7	イワガキ	C	34	ミロクウロコムシ			
			8	ウスカラシオツガイ		35	ヤッコカンザシゴカイ			
			9	ウチムラサキガイ		36	ヤマトスピオ			
			10	ウネナシトマヤガイ		37	多毛類			
			11	オキシジミ	C	ヨコエビ・ワレカラ類	1	オオワレカラ		
			12	オニアサリ	C	2	カマキリヨコエビ属			
			13	オハダゴガキ属		3	トゲワレカラ			
			14	カガミガイ		4	トゲワレカラモドキ			
			15	カリガネエガイ		5	ドロクダムシ科			
			16	キクザルガイ		6	トンガドリクダムシ			
			17	キヌマトイガイ		7	ニッポンメリタヨコエビ			
		18	クジャクガイ		8	ニホンドロソコエビ				
		19	クチバガイ	C	9	ハマトビムシ科				
		20	クチベニデガイ		10	ヒゲナガヨコエビ属				
		21	クログチガイ	B	11	ヒゲナガヨコエビ科				
		22	ケガキ		12	ヒメハマトビムシ種群				
		23	コウロンエンカワヒバリガイ		13	フサゲモクス				
		24	コメザクラ		14	フトメリタヨコエビ				
		25	サクラガイ	B	15	ボシエトゲオヨコエビ				
		26	セミアサリ		16	マルエラワレカラ				
		27	ソトオリガイ	B	17	メリタヨコエビ属				

注) 1) 種類の記載順は各分類群の中で五十音順。アルファベットは先頭。
 2) WL欄は大阪湾海岸生物ウエルカムリストの区分を示す。
 3) :種まで同定されていないもの(種数に含めない)。ただし、カニ類のヒライソガニ属は単一種とする

表1(4) 令和6年度出現種一覧

分類群	No.	和名・種名	WL	分類群	No.	和名・種名	WL
ヨコエビ・フレカラ類 (続き)	18	モズミヨコエビ		魚類 (続き)	8	アミメハギ	
	19	ヨツデヒゲナガ			9	アユ	
	20	ヨコエビ類			10	イシダイ	
	21	フレカラ属			11	イソギンボ	
フジツボ類	1	アメリカフジツボ		12	イソミズハゼ		
	2	イワフジツボ		13	イダテンカジカ		
	3	カメノテ		14	イダテンギンボ		
	4	クロフジツボ		15	ウロハゼ		
	5	サンカクフジツボ		16	オクヨウジ		
	6	シロスジフジツボ		17	カサゴ		
	7	タテジマフジツボ		18	カタクテイワシ		
	8	ドロフジツボ		19	カマス属		
	9	ヨーロッパフジツボ		20	カワハギ		
ヤドカリ類	1	イソカナダマン		21	ガンテンイシヨウジ		
	2	ケアシホンヤドカリ		22	キチヌ		
	3	ケブカヒメヨコバサミ		23	キヌバリ		
	4	コブカナダマン		24	キュウセン		
	5	コブヨコバサミ	C	25	ギンボ		
	6	テナガツノヤドカリ	C	26	クサフグ		
	7	ヒラトケガニ		27	クジメ		
	8	フトウデネジレカナダマン		28	クラカケトラギス		
	9	ホンヤドカリ		29	クロダイ		
	10	ユビナガホンヤドカリ		30	コケギンボ		
カニ類	1	アカテガニ	C	31	コトヒキ		
	2	アシハラガニ	C	32	コモンフグ		
	3	イシガニ		33	ゴンズイ		
	4	イソガニ		34	サバフグ属		
	5	イッカクガニ		35	サラサカジカ		
	6	イッカククモガニ		36	シマイサキ		
	7	イワガニ		37	シマウシノシタ		
	8	オウギガニ		38	シロギス		
	9	オサガニ	C	39	シロメバル		
	10	カイカムリ科		40	スズキ		
	11	カクベンケイガニ		41	スズメダイ		
	12	ガザミ		42	スナビクニン		
	13	キンセンガニ	C	43	ダイナンギンボ		
	14	クロベンケイガニ		44	タケノコメバル		
	15	ケブカアワツブガニ		45	チチブ		
	16	ケブサイソガニ		46	チチブ属		
	17	コメツキガニ	C	47	ツマグロスジハゼ		
	18	シオマネキ	B	48	ツルウバウオ		
	19	シワオウギガニ		49	トウゴロウイワシ		
	20	スナガニ	C	50	トゲヨウジ		
	21	スネナガイソガニ	C	51	トサカギンボ		
	22	スベスベオウギガニ		52	トビヌメリ		
	23	タイワンガザミ		53	トラフグ属		
	24	タカノケフサイソガニ		54	ドロメ		
	25	テチュウカイミドリガニ		55	ナベカ		
	26	トガリオウギガニ		56	ニクハゼ		
	27	トリウミアカイソモドキ	B	57	ニジギンボ		
	28	ハクセンシオマネキ	C	58	ネズツボ属		
	29	ハマガニ	C	59	ネズツボ科		
	30	ヒメアカイソガニ		60	ネズミコチ		
	31	ヒメアシハラガニ	B	61	ハナオコゼ		
	32	ヒメケブカガニ		62	ヒガンフグ		
	33	ヒメベンケイガニ		63	ヒメハゼ		
	34	ヒライソガニ		64	ヒラメ		
	35	ヒライソガニ属(ケアシヒライソガニ)	C	65	フグ科		
	36	ヒラトケガニ		66	ベニツケギンボ		
	37	フジテガニ	B	67	ヘビギンボ		
	38	フタバカクガニ	C	68	ホウボウ		
	39	フタバベニツケガニ		69	ホシギンボ		
	40	ヘリトリマンジュウガニ		70	ボラ		
	41	マメコブシガニ	C	71	ボラ科		
	42	モクズガニ		72	ホンペラ		
	43	ヤマトオサガニ	C	73	マタナゴ		
	44	ヤワラガニ科		74	マハゼ		
	45	ユビアカベンケイガニ	C	75	ミズハゼ属		
	46	ヨツハマガニ		76	ムスジガジ		
魚類	1	アオタナゴ		77	ムラソイ		
	2	アカエイ		78	メイトガレイ		
	3	アカオビシマハゼ		79	メジナ		
	4	アゴハゼ		80	メジナ属		
	5	アサヒアナハゼ		81	メバル属		
	6	アナハゼ		82	ヨウジウオ		
	7	アベハゼ					

注) 1) 種類の記載順は各分類群の中で五十音順。アルファベットは先頭。
 2) WL 欄は大阪湾海岸生物ウエルカムリストの区分を示す。
 3) : 種まで同定されていないもの(種数に含めない。ただし、カニ類のヒライソガニ属は単一種とする)

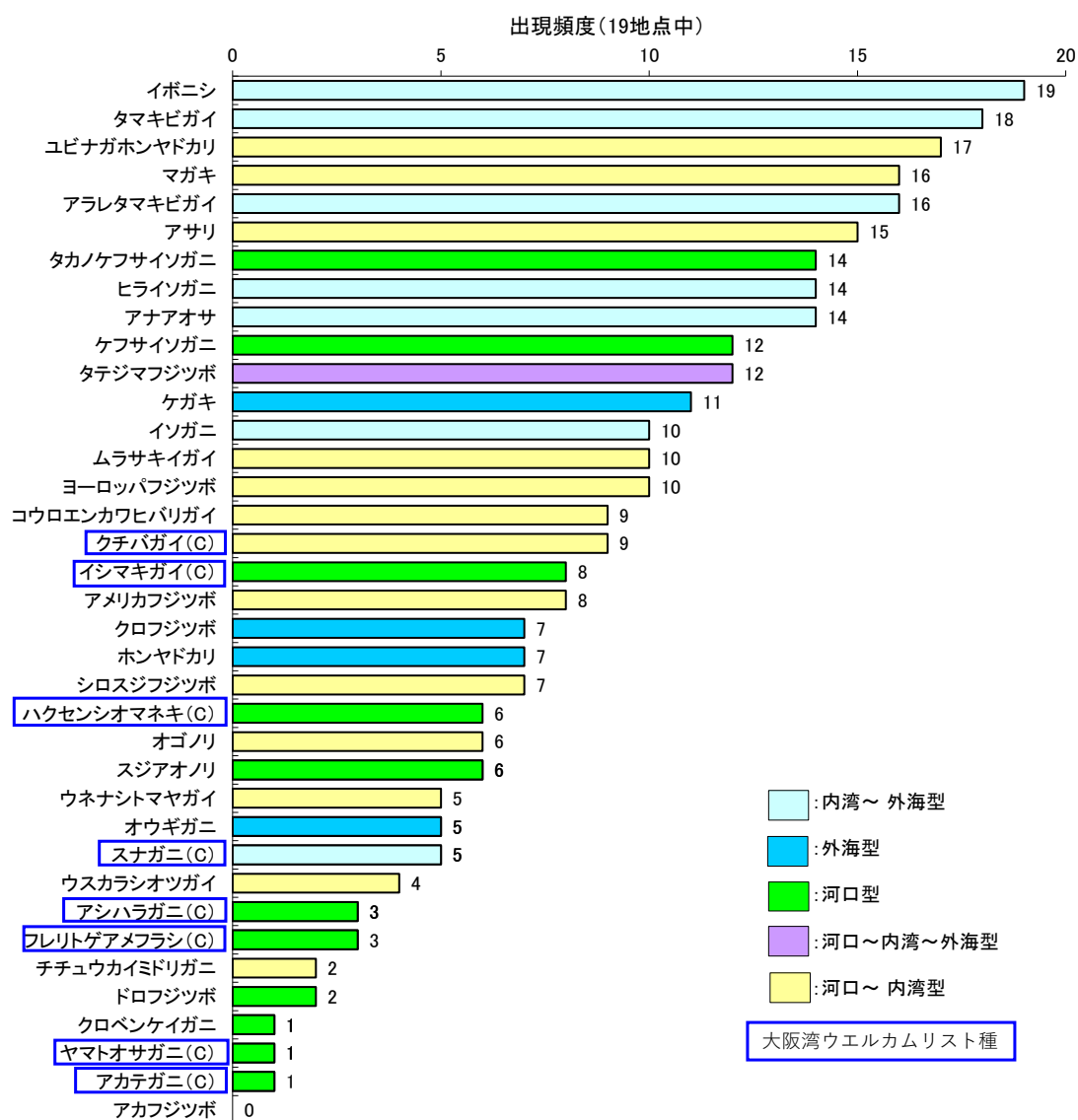
表1(5) 令和6年度出現種一覧

分類群	No.	和名・種名	WL	分類群	No.	和名・種名	WL	
昆虫類	1	アオバアリガタハネカクシ		その他 (続き)	1	イソミズ		
	2	アカバアバタウミベハネカクシ			2	テングダニ科		
	3	ウミベアカバハネカクシ			3	フタツメイソウミグモ		
	4	オオアバタウミベハネカクシ			4	コノハエビ		
	5	カンジンナギサハネカクシ			等脚類	1	アオホシフナムシ	
	6	スソハダケハネカクシ属			2	イソコツブムシ		
	7	ヒメホソハマベゴミダマシ			3	イソコツブムシ属		
	8	ヤナギハムシ			4	イソハラムシ		
	9	ヤナギルリハムシ			5	エビヤドリムシ科		
	10	ムラサキウミビムシ			6	オカダンゴムシ		
鳥類	1	アオサギ			7	キタフナムシ		
	2	インヒヨドリ			8	コツブムシ科		
	3	ウミネコ			9	トライフナムシ		
	4	カルガモ			10	ニセスナホリムシ		
	5	カワウ			11	ハマダンゴムシ	A	
	6	コアシサシ		12	フナムシ属			
	7	コサギ		13	フクロムシ科			
	8	コチドリ		14	ハラムシ亜目			
	9	ダイサギ		15	ハラムシ科			
	10	ツバメ		アナジャコ類	1	アナジャコ	A	
	11	ドバト			2	スナモグリ属		
	12	ハクセキレイ			3	ニホンスナモグリ	C	
	13	ハシボソガラス			4	ハルマシナモグリ	C	
	14	ミサゴ		エビ類	1	アシナガスジエビ		
両生類	1	ウシガエル			2	イソスジエビ		
	2	ヌマガエル			3	イソテッポウエビ種群		
爬虫類	1	クサガメ			4	イソモエビ		
	1	クロイソカイメン			5	エビジャコ属		
その他	2	コエダカイメン			6	クルマエビ科		
	3	ダイダイイソカイメン			7	クルマエビ属		
	4	ナミイソカイメン			8	コシマガリモエビ	C	
	5	普通海綿綱			9	スジエビ属		
	6	ムラサキカイメン			10	スジエビモドキ		
	7	ユズダマカイメン			11	セジロムラサキエビ		
	ヒドロ虫類	1	ウミサカヅキガヤ科		12	ツノモエビ	B	
		2	カイウミヒドラ近似種		13	テッポウエビ	C	
	クラゲ類	1	アカクラゲ		14	テッポウエビ属		
		2	カキノテクラゲ		15	テッポウエビ属の一種E ※)		
		3	カミクラゲ		16	ヒラツノモエビ	A	
		4	ミズクラゲ		17	ホソモエビ		
	イソギンチャク類	1	イソギンチャク目		18	ユビナガスジエビ		
		2	ウメボシイソギンチャク		ヒトデ類	1	イトマキヒトデ	
		3	タテジマイソギンチャク			2	キヒトデ(マヒトデ)	
		4	ヒメイソギンチャク			3	チビイトマキヒトデ	
		5	ペリルイソギンチャク			4	ヌメハダヒメヒトデ	
		6	ミドリイソギンチャク			5	ヌノイトマキヒトデ	
		7	ヨロイイソギンチャク			6	ヒメヒトデ	
		8	ヨロイイソギンチャク属			7	ヤツデヒトデ	
	ヒラムシ類	1	ウスヒラムシ		クモヒトデ類	1	イソコモチクモヒトデ	
		2	オオツノヒラムシ			2	ナガトゲクモヒトデ	
		3	ツノヒラムシ			3	ニホンクモヒトデ	
		4	ヒラムシ目		ウニ類	1	アカウニ	
		5	ミノヒラムシ			2	ニッポンシダカウニ	
	ヒモムシ類	1	Evelineus mcintoshii(ワウス科)			3	コデマリウニ	
		2	クリゲヒモムシ			4	サンショウウニ	
		3	ヒモムシ類(紐型動物)			5	バフンウニ	
		4	ホソミドリヒモムシ			6	ムラサキウニ	
		5	ミサキヒモムシ		ナマコ類	1	イシコ	
		6	ミドリヒモムシ			2	ヒモイカリナマコ	C
	3	ホシムシ類(星口動物)		3		マナマコ属		
	ホウキムシ類	1	Phoronis属		ホヤ類	1	イタボヤ科	
	腕足類	1	スズメガイダマシ			2	エボヤ	
		2	スズメガイダマシ属			3	カタウレイボヤ	
	コケムシ類	1	Bugulina stolonifera(フサコケムシ科)			4	コバルトツツボヤ	
		2	Thalamoporella属(ツマツケムシ類)			5	シロウスボヤ	
		3	コケムシ綱			6	シロボヤ	
		4	コフヒラコケムシ			7	ナツメボヤ科(旧アスキア科)	
		5	チゴケムシ			8	フタスジボヤ	
		6	ハナザラコケムシ			9	ペニボヤ	
		7	フサコケムシ			10	マンハッタンボヤ	
		8	ボンダワラコケムシ			11	ミハエルボヤ	
	頭足類	1	コウイカ			12	ユウレイボヤ	
		2	マダコ		種類数(種確定)		662	
		3	ヒメイカ	C	種まで確定しない種群数		99	
	ホシムシ類	1	スジホシムシモドキ	C	合計		761	
		2	スジホシムシ科					
		3	ホシムシ類(星口動物)					

注) 1) 種類の記載順は各分類群の中で五十音順。アルファベットは先頭。
 2) WL 欄は大阪湾海岸生物ウエルカムリストの区分を示す。
 3) :種まで同定されていないもの(種数に含めない。ただし、カニ類のヒラソガニ属は単一種とする)
 4) 「テッポウエビ属の一種E」は、吉郷英範(2009)、日本の河口域とアンキアラインで確認されたテッポウエビ科エビ類(甲殻類:エビ目)、比和科学博物館研究報告(50)で報告された未記載種の特定期(E)を示す。

調査シートの一覧掲載種の出現頻度を河口、内湾、外海等の生態型とともに整理し、図3に示しました。各種の生態型については、大阪湾生き物一斉調査解説ブック、第24回 淀川環境委員会 4.汽水域環境部会 汽水域生物環境評価WG報告の「分析対象種と類型」及び各種図鑑等に記載されている生態を参考に分類しました。

全体に河口～内湾型や内湾～外海型の種の出現頻度が高く、イボニシは全ての調査地点で確認され、次いで、タマキビガイが19地点中18地点で確認されました。河口～内湾型の生物ではユビナガホンヤドカリが17地点、マガキが16地点で、河口型の生物ではタカノケフサイソガニが14地点、ケフサイソガニが12地点で確認されました。なお、今年度は調査シートに掲載された37種（海浜植物6種除く）のうちアカフジツボを除く36種がいずれかの地点で確認されました。



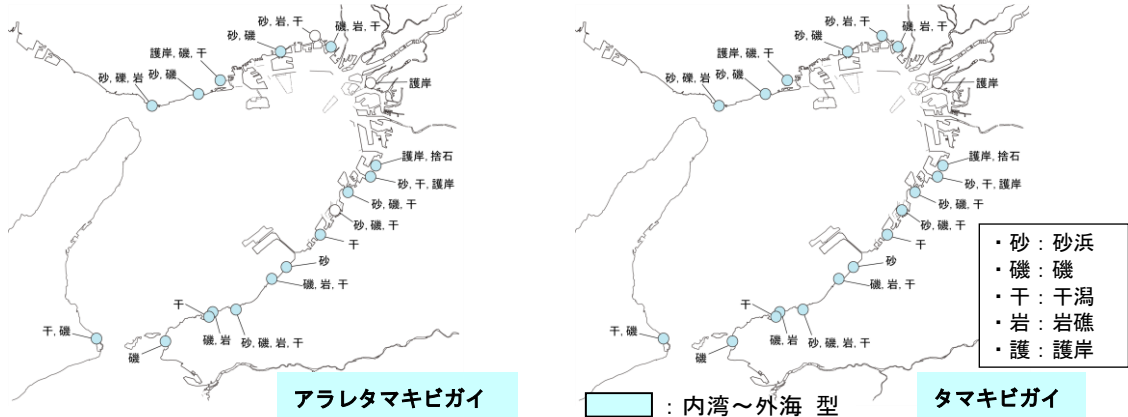
注) 種名の後ろの「(C)」は大阪湾海岸生物ウエルカムリストのCランクに該当することを示している。

図3 調査シート掲載種の生態型と出現頻度 (令和6年度)

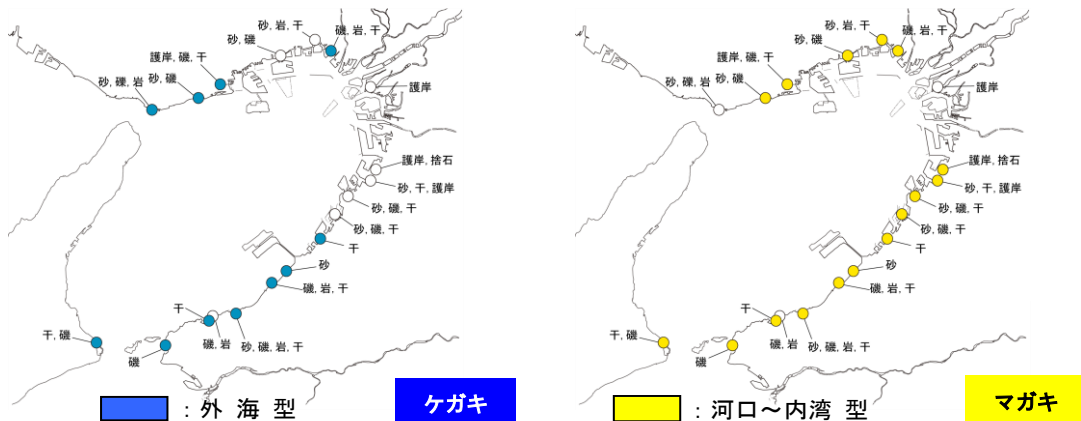
調査シートのリスト掲載種を中心に、大阪湾の代表的な種の分布を図4（1）～（4）に示しました。

貝類・ヤドカリ類

- アラレタマキビガイ、タマキビガイは内湾～外海型で、アラレタマキビガイは高潮帯の波しぶきの当たる所を好みますが、本年も静穏な湾奥まで広域で出現しました。タマキビガイは潮間帯に普通にみられ、河口の一部を除くほぼ全域で出現しました。



- 外海型のケガキは、例年では、湾中央～湾奥では出現していませんでしたが、本年は湾奥の甲子園浜でも出現しました。河口～内湾型のマガキはほぼ全域で出現しました。



- 外海型のホンヤドカリは、兵庫運河～せんなん里海公園ラインより湾口側で出現しました。これに対し、河口～内湾型のユビナガホンヤドカリは湾内のほぼ全域で出現しました。

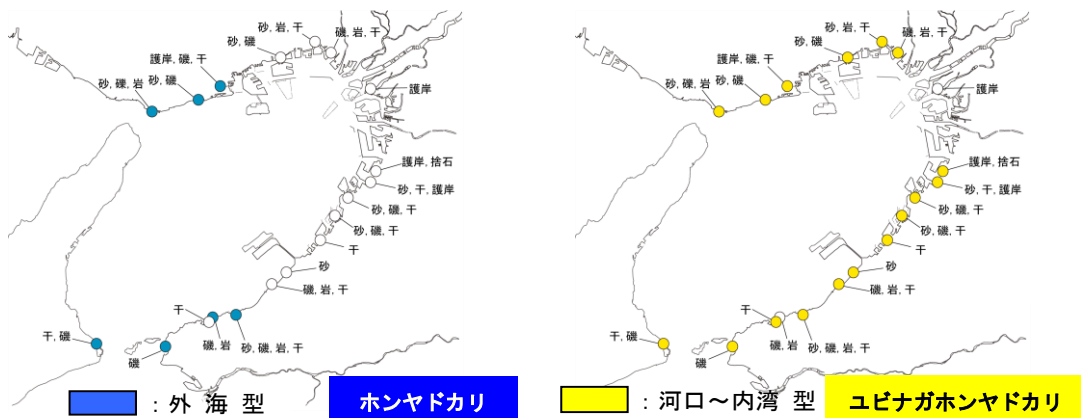
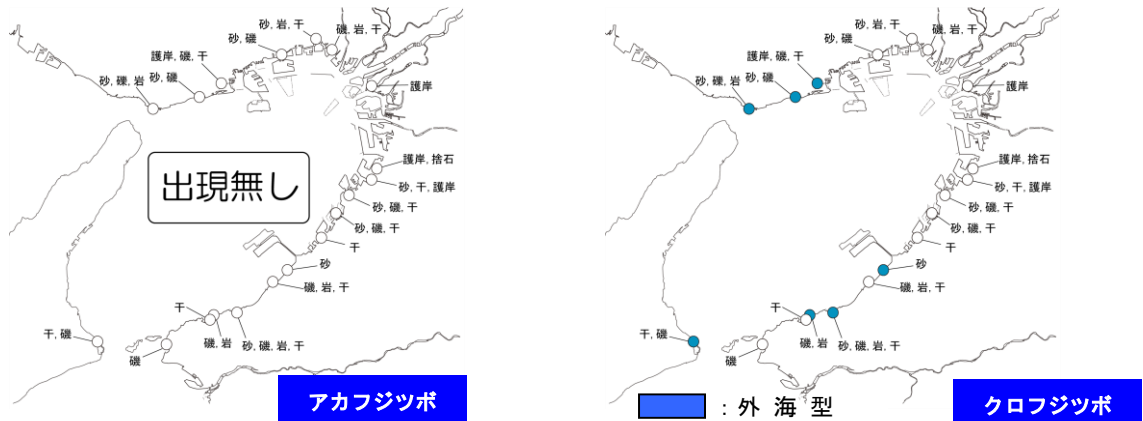


図4（1） 代表的な種の分布（貝類、ヤドカリ類）—令和6年度

フジツボ類

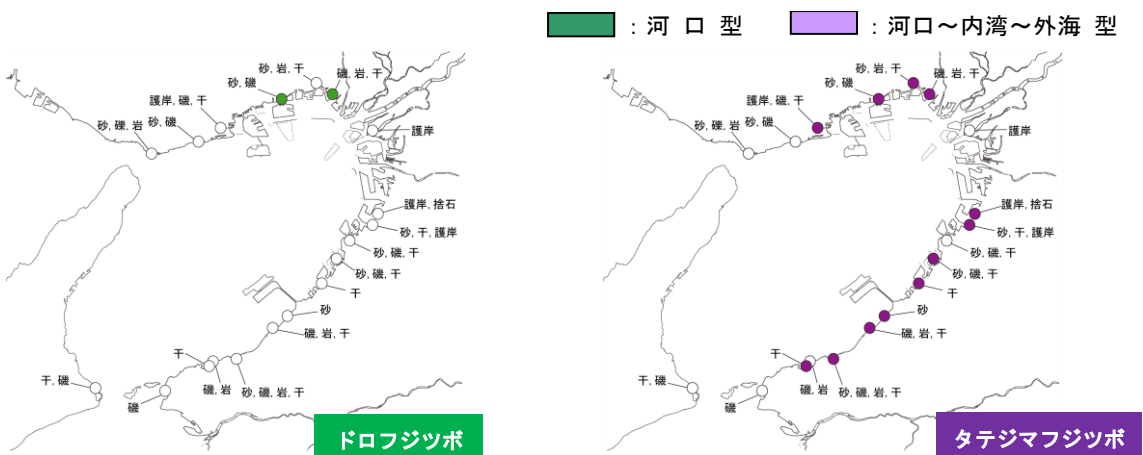
- 本年度は、外海型のアカフジツボは出現しませんでした。クロフジツボは兵庫運河－櫛井川河口・岡田浦海岸ラインより湾口側で出現しました。



- 河口～内湾型のアメリカフジツボ、ヨーロッパフジツボは湾中央～湾奥で出現し、シロスジフジツボは主に運河・河口地点で出現しました。



- 河口型のドロフジツボは湾奥で淡水の影響の強い河口付近の地点で出現しました。一方、広域型のタテジマフジツボは湾口～湾奥の多くの地点で出現しました。



- なお、アカフジツボやドロフジツボは主に潮下帯に付着することから、観察される機会が少なかったことも考えられます。

図4 (2) 代表的な種の分布 (フジツボ類) - 令和6年度

カニ類

- 砂浜に生息するスナガニは、例年と同様に、主に湾中央～湾奥の砂浜がある地点で出現しましたが、本年は湾口の成ヶ島、せんなん里海公園でも出現しました。

砂浜に生息する



□ : 内湾～外海 型

スナガニ (C)

- 泥干潟に生息するヤマトオサガニは泥質干潟のある大津川河口（左岸）で出現し、砂礫性のハクセンシオマネキはそれ以外の河口地点で出現しました。

泥 <干潟に生息する> 砂泥、砂礫



ヤマトオサガニ (C)



ハクセンシオマネキ (C)

■ : 河口型

- アシハラガニやクロベンケイガニ、アカテガニは河口にある地点等で出現しました。

砂泥・粘土質 <河口のヨシ原等に生息する> 草地・崖・石垣



アシハラガニ (C)



クロベンケイガニ



アカテガニ (C)

■ : 河口型

図4 (3) 代表的な種の分布 (カニ類) - 令和6年度

外来種

- ミドリイガイは湾中央～湾奥で出現しました。ミドリイガイは主に潮間帯下部～潮下帯に着生し、潮間帯の観察では見つけにくいいため、出現地点は年により変わっています。

□ : 内湾～外海 型



ミドリイガイ

- ムラサキイガイは湾口～湾奥の多くの地点で出現しました。

□ : 河口～内湾 型



ムラサキイガイ

- コウロエンカワヒバリガイは湾中央～湾奥の多くの地点で出現しましたが、チチュウカイミドリガニは湾中央～湾奥の少ない地点で出現しました。

□ : 河口～内湾 型



コウロエンカワヒバリガイ



チチュウカイミドリガニ

- 河口型のイガイダマシは、昨年に引き続き確認されませんでした。カニヤドリカンザシゴカイは兵庫運河のみで出現しました。河口～内湾型のウスカラシオツガイは湾中央～湾奥で出現しました。



イガイダマシ



カニヤドリカンザシゴカイ



ウスカラシオツガイ

□ : 河口型

□ : 河口～内湾 型

図4 (4) 代表的な種の分布 (外来種) - 令和6年度

3-2. 過年度との比較

調査シートのリスト掲載種について、平成 20～30 年度及び令和元～6 年度の調査結果を併せて整理し、表 3 に示しました。

平成 20 年度の調査シート掲載種は 41 種でしたが、出現状況を踏まえ、平成 21 年度以降は一部の種の入替えや追加を行い、43 種（多毛類、ヨコエビ類含まず）を調査シートに掲載して実施しました。また、各調査地点の調査場所については、団体によっては調査海岸を変更している場合や、同一地点内で調査範囲を変更している場合がみられ、調査人数にも違いがあります。

令和 2 年度以降の調査については、新型コロナウイルスの感染防止のため、調査時期が地点毎に異なっている場合や、調査人数を制限している場合があります。

このため、17 カ年の出現状況を単純に比較することはできませんが、経年的にほぼ同一場所で調査されているとみられる調査地点同士についてみると、おおむね種数が近似しており、同様の種が確認されている場合が多いため、各調査地点における安定した出現特性が分かるようになってきました。

表3(2) 調査シートのリスト掲載種の地点別出現状況(平成20~30、令和元~6年)

分類群	種名	年(平成・令和)	調査地点No.																		
			5	20	6	24	17	29	30	7											
海藻類	緑藻類	アナオオサ	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	
	紅藻類	スジアオリ	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	
植物		オカヒジキ	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	
		コウボウムギ	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	
		ハマウド	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	
		ハマゴウ	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	
		ハマダイコン	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	
		ハマボウフウ	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	
貝類	巻き貝類	アラレタマキビガイ	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	
		イシマキガイ(C)	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	
		イボニシ	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	
		タマキビガイ	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	
		フレリトゲアメフラシ(C)	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	
	二枚貝類	アサリ	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	
		ウスカラシオツガイ	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	
		ウネナシトマヤガイ	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	
		クチバガイ(C)	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	
		ケガキ	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	
		コウロエンカワヒバリガイ	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	
		マガキ	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	
		ムラサキガイ	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	
フジツボ類		アカフジツボ	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	
		アメリカフジツボ	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	
		クロフジツボ	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	
		シロシフジツボ	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	
		タテジマフジツボ	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	
		ドロフジツボ	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	
		ヨーロッパフジツボ	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	
ヤドカリ類		ホンヤドカリ	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	
		ユビナガホンヤドカリ	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	
カニ類		アカテガニ(C)	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	
		アシハラガニ(C)	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	
		イソガニ	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	
		オウギガニ	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	
		クロベンケイガニ	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	
		ケフサイソガニ	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	
		スナガニ(C)	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	
		タカノケフサイソガニ	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	
		チチュウカイミドリガニ	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	
		ハクセンシオマネキ(C)	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	
		ヒライソガニ	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	
		ヤマトオサガニ(C)	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	
その他		多毛類	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	
		ヨコエビ類	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	
		種類数(●の数)	7	7	10	10	9	6	10	8	11	9	11	8	7	6	7	9	4	7	

注: 1) ●:種まで同定されたもの。□:種まで同定されていないもの(種数に含めない)。出現頻度欄の“-”は対象外を示す。
 2) 種名は各生物群中で五十音順。種名欄の淡紫色網掛けは大阪湾海岸生物ウエルカムリスト該当種を示し、()内はそのランクを示す。
 3) 平成20年度のリスト掲載種で出現せず、21年度ではリストから削除したヒトエグサ、ホンビノスガイ及びミナトオウギガニおよび、21年度にリストに追加したが確認されず22年にリストから削除したサキグロタマツメタの計4種については省略した。
 4) 平成22年度の近木川河口については、南岸・左岸合体見直しで、クチバガイとヒライソガニが追加され、24種となった。
 5) 大津川河口については、平成22年度までは右岸干潟で実施したが、23年度以降は通行不可のため左岸で実施した。津田川河口と茶屋川河口は平成20年に1回、海老江干潟は平成21,28年の2回のみのため、本経年表では省略した。
 6) 平成27年度は地点No.26波有手海岸とNo.27深日流港干潟、平成28年度はNo.29諏訪森海岸、平成29年度はNo.30浜寺水路、平成30年度はNo.31西鳥取海岸とNo.32箱作海岸、令和元年度はNo.33尾崎漁港西浜、令和2年度はNo.34兵庫運河を、それぞれ追加した。
 7) 令和2年度は、No.34兵庫運河(新川橋河口)、No.2香榎園浜、No.20天保山、No.6野島臨港緑地、No.13男里川河口干潟、No.26波有手海岸、No.31西鳥取海岸、No.32箱作自然海岸、No.14せんなん里海公園、及びNo.23長松海岸については春季(5~6月)に、No.21須磨海岸、No.34兵庫運河(材木橋)、No.3甲子園浜、No.4矢倉海岸、No.30浜寺水路、No.7高師浜、No.8大津川河口、及びNo.9阪南二区造成干潟については春季以外(7~10月)に実施された結果を示す。
 8) 令和5年度は、No.26波有手海岸、No.31西鳥取海岸及びNo.32箱作海岸については調査シートの記載がないため掲載していない。
 9) 令和6年度は、No.25尾崎海岸、No.26波有手海岸、No.31西鳥取海岸及びNo.32箱作海岸については調査シートの記載がないため掲載していない。

付表1(1) 令和6年度貴重種の出現状況一覧

分類群	No.	和名	該当RDB等	兵庫県 RDB 1)	大阪府 RDB 2)	環境省版 RL 3)	水産庁 RDB 4)	WWF干潟 RDB 5)	干潟の絶滅危惧 動物図鑑 6)	【参考】大阪湾ウ ェルカムリスト 7)
海藻類	1	スジアオノリ					減少傾向			
	2	ホンダワラ	LE(県瀬戸内海沿岸)							
海草類	1	アマモ			アマモ場(生態系):A					C
	2	コアマモ	(絶滅危惧Ⅰ類)					希少		B
植物 (調査シート掲載種)	1	コウボウムギ			絶滅危惧Ⅱ類					
	2	ハマゴウ			絶滅危惧Ⅱ類					
	3	ハマボウフウ			絶滅危惧Ⅰ類					
貝類	巻き貝類	1	アカニシ				減少	危険		
		2	アマガイ	(絶滅危惧Ⅱ類)						
		3	イシマキガイ				減少			C
		4	イナザワハベガイ	(絶滅危惧Ⅱ類)						C
		5	イボウミナ	(絶滅危惧Ⅰ類)	情報不足	絶滅危惧Ⅰ類		絶滅寸前	絶滅危惧Ⅱ類	B
		6	ウネボラ			絶滅危惧Ⅱ類				
		7	ウミナメクジ		情報不足			危険		C
		8	ウミナ		準絶滅危惧	準絶滅危惧	減少傾向	危険	準絶滅危惧	C
		9	クチキレガイ		情報不足					
		10	クリイロカワザンショウ	(準絶滅危惧)	準絶滅危惧	準絶滅危惧			準絶滅危惧	C
		11	クリイロカワザンショウ属	(絶滅危惧Ⅱ類)						
		12	クロミドリガイ					危険		
		13	コゲツノブエガイ	(絶滅危惧Ⅰ類)			絶滅危惧Ⅱ類	絶滅寸前	準絶滅危惧	B
		14	ゴマフホラダマン				絶滅危惧Ⅱ類			
		15	サツマクリイロカワザンショウ	(準絶滅危惧)	準絶滅危惧					C
		16	シボリガイ		準絶滅危惧					C
		17	シオウクチキレガイ			準絶滅危惧			準絶滅危惧	
		18	ナギサシタタリ	(絶滅危惧Ⅱ類)	絶滅危惧Ⅱ類					B
		19	バテイラ				減少			
		20	ヒモイカリナモツマミガイ	(絶滅危惧Ⅰ類)	絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧Ⅱ類		危険	絶滅危惧Ⅱ類	C
		21	フトヘナタリ		準絶滅危惧	準絶滅危惧		危険	準絶滅危惧	C
		22	ホソウミナ		絶滅危惧Ⅰ類					C
		23	マルウスズタマキガイ					危険		C
		24	ミヤコドリガイ	(絶滅危惧Ⅰ類)	絶滅危惧Ⅱ類	準絶滅危惧		危険	準絶滅危惧	C
	二枚貝類	25	アコヤガイ				減少			
		26	イワガキ				減少傾向			C
		27	ウネナシトマヤガイ			準絶滅危惧		危険		
		28	オキシジミ		絶滅					C
		29	オニアサリ		準絶滅危惧					C
		30	オハグロガキ属		準絶滅危惧					
		31	カガミガイ		準絶滅危惧					
		32	クチハガイ			準絶滅危惧				C
		33	サクラガイ		準絶滅危惧	準絶滅危惧			準絶滅危惧	B
		34	ソトオリガイ		準絶滅危惧			危険		B
		35	チリハギガイ		準絶滅危惧					B
		36	ニッポンマメアゲマキガイ	(絶滅危惧Ⅰ類)		準絶滅危惧			準絶滅危惧	B
		37	バカガイ		準絶滅危惧					C
		38	ハボウキガイ	(絶滅危惧Ⅰ類)	絶滅危惧Ⅱ類	準絶滅危惧		危険	準絶滅危惧	C
		39	ヒメアサリ		準絶滅危惧					
		40	ヒメカノコアサリ		準絶滅危惧					C
		41	マツカゼガイ		準絶滅危惧					
		42	マテガイ	要注目	準絶滅危惧					C
		43	ムラサキガイ	(絶滅危惧Ⅰ類)	絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧Ⅱ類		絶滅寸前	絶滅危惧Ⅱ類	B
		44	ユウシオガイ	(絶滅危惧Ⅰ類)	絶滅危惧Ⅱ類	準絶滅危惧		危険	準絶滅危惧	C
多毛類	1	タマシキゴカイ	(準絶滅危惧)	準絶滅危惧					C	
ヤドカリ類	1	テナガツノヤドカリ			情報不足			準絶滅危惧	C	

付表1 (2) 令和6年度貴重種の出現状況一覧

分類群	No.	和名	該当RDB等	兵庫県 RDB 1)	大阪府 RDB 2)	環境省版 RL 3)	水産庁 RDB 4)	WWF干潟 RDB 5)	干潟の絶滅危惧動物図鑑 6)	【参考】大阪湾ウエルカムリスト 7)
カニ類	1	アカテガニ	(絶滅危惧Ⅱ類)							C
	2	アシハラガニ	(準絶滅危惧)							C
	3	オサガニ	(絶滅危惧Ⅰ類)		準絶滅危惧	準絶滅危惧			準絶滅危惧	C
	4	キンセンガニ			準絶滅危惧					C
	5	クロベンケイガニ	(準絶滅危惧)							
	6	コメツギガニ	(準絶滅危惧)		準絶滅危惧					C
	7	シオマネキ			絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧Ⅱ類	希少	危険	絶滅危惧Ⅱ類	B
	8	スナガニ	(絶滅危惧Ⅱ類)		準絶滅危惧					C
	9	スナナガイソガニ	(準絶滅危惧)		準絶滅危惧			希少	準絶滅危惧	C
	10	トリウミアカイソモドキ	(絶滅危惧Ⅱ類)		絶滅危惧Ⅱ類	準絶滅危惧		危険	準絶滅危惧	B
	11	ハクセンシオマネキ	(準絶滅危惧)		準絶滅危惧	絶滅危惧Ⅱ類		危険	準絶滅危惧	C
	12	ハマガニ	(絶滅危惧Ⅱ類)		準絶滅危惧				準絶滅危惧	C
	13	ヒメアシハラガニ	(絶滅危惧Ⅱ類)		準絶滅危惧	準絶滅危惧			準絶滅危惧	B
	14	フジテガニ			準絶滅危惧	準絶滅危惧			準絶滅危惧	B
	15	フタバカクガニ	(絶滅危惧Ⅱ類)							C
	16	マメコブシガニ	(絶滅危惧Ⅱ類)		準絶滅危惧				準絶滅危惧	C
	17	モクスガニ					減少傾向			
	18	ヤマトオサガニ	(準絶滅危惧)							C
	19	ユビアカベンケイガニ	(準絶滅危惧)		準絶滅危惧	準絶滅危惧			準絶滅危惧	C
魚類	1	アユ			準絶滅危惧					
	2	タケノコメバル				準絶滅危惧				
	3	トサカギンボ	要調査							
その他	頭足類	1	ヒメイカ		絶滅危惧Ⅱ類		減少			C
	ホシムシ類	1	スジホシムシモドキ	(絶滅危惧Ⅱ類)	準絶滅危惧	準絶滅危惧		普通/希少	準絶滅危惧	C
	等脚類	1	ハマダシゴムシ		絶滅危惧Ⅱ類					A
	アナジャコ類	1	アナジャコ	(絶滅危惧Ⅱ類)	絶滅危惧Ⅱ類					A
		2	ニホスナモグリ	(準絶滅危惧)	絶滅危惧Ⅱ類					C
		3	ハルマンスナモグリ	(絶滅危惧Ⅱ類)	絶滅危惧Ⅱ類					C
	エビ類	1	エビジャコ属	(絶滅危惧Ⅱ類)						
		2	テッドウエビ	(準絶滅危惧)						C
	ウニ類	1	アカウニ				減少傾向			
	ナマコ類	1	ヒモイカリナマコ	(絶滅危惧Ⅱ類)	準絶滅危惧			危険		C

注)

- 兵庫県版 レッドリスト2014(貝類・その他無脊椎動物)、レッドリスト2020(植物・植物群落)、兵庫県版レッドデータブック2017(魚類) ()は兵庫県評価を「改訂・日本版レッドデータブック」の相当カテゴリに置換したものの。
- 大阪府 レッドリスト2014
- 環境省 レッドリスト(2020)、海洋生物レッドリスト(2017)
- 水産庁.1998:日本の希少な野生水生生物に関するデータブック 社団法人日本水産資源保護協会.437pp.東京. 評価「普通」は省略した。
- WWF Japan Science Reprot vol.3,1996.
- 日本ベントス学会編 2012.干潟の絶滅危惧動物図鑑-海岸ベントスのレッドデータブック-.東海大学出版会.神奈川県.285pp.
- 大阪湾海岸生物ウエルカムリスト(無脊椎動物・海藻・海草,2022年版)は1)~6)で選定した貴重種について該当状況を示した。区分は以下のとおりである。
A:大阪湾内では近年(1950年代以降)の記録が無い(ただし近隣海域では記録されている)種。あるいは記録がごく限られていて、生育・生息基盤が脆弱であると考えられる種。[目安として、文献等による記録・情報が0-2箇所以下]
B:大阪湾内では産地が限られていて、今後分布の拡大が期待される種。[同3-5箇所]
C:大阪湾内では多数の地点で記録され、かつ良好な環境(水質・底質・地形)の目安となる種。[同6箇所以上]
- 貴重種選定にあたり、基本的に水生動物を対象とし、陸上植物は本調査の調査シート掲載種に限定した。
- 各評価の区分と定義概念は下記による。特に区別の記載のない区分は環境省に準ずる。
絶滅危惧Ⅰ類:現在の状態をたまたした圧迫要因が引き続き作用する場合、野生での存続が困難なもの。
絶滅危惧Ⅱ類:現在の状態をたまたした圧迫要因が引き続き作用する場合、近い将来「絶滅危惧Ⅰ類」のランクに移行することが確実と考えられるもの。
準絶滅危惧:現時点での絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧」として上位ランクに移行する要素を有するもの。
情報不足:評価するだけの情報が不足している種。
地域個体群:地域的に孤立している個体群で、絶滅のおそれが高いもの。
要注目種(兵庫):最近減少の著しい種、優れた自然環境の指標となる種などの貴重種に準ずる種。
要調査種(兵庫):環境省レッドデータブックの情報不足に相当。兵庫県において評価するに足るデータがない種。
要注目種(大阪):「絶滅」「絶滅危惧」「準絶滅危惧」「情報不足」の区分以外で大阪府において保護上重要なもの。
減少傾向(水産庁):長期的にみて減少しつつあるもの。
減少(水産庁):明らかに減少しているもの。
希少(水産庁):存続基盤が脆弱な種・亜種。
危急(水産庁):絶滅の危険が増大している種・亜種(環境省に準ずる)。
危険(WWF):絶滅に向けて進行しているとみなされる種。今すぐ絶滅という危機に瀕するということはないが、現状では確実に絶滅の方向へ向かっていると判断されるもの。
希少(WWF):特に絶滅を危惧されることはないが、もともと個体数が非常に少ない種。「普通/希少」は地域により評価が異なる場合。
普通/希少(WWF):地域により状況が異なる。
- 表中網掛けは、評価指定後、今年度初確認の貴重種を示す。従って、評価指定以前に出現している場合もある。
- 貴重種記載資料の該当府県の場所で出現していない場合もある。

4. 調査テーマ「ウェルカムリストのCランクの巻き貝類」の結果

今年度の調査ではウェルカムリストのCランクの巻き貝類に注目しました。

19地点中、ウミナが最も多く15地点で確認され、次いでアラムシロガイが12地点、マルウズラタマキビガイが11地点で確認されました。

No.	和名・種名 / 地点	地点No.																			出現地点数		
		①	②	③	⑦	⑧	⑨	⑩	⑫	⑬	⑭	⑰	⑳	㉑	㉓	㉔	㉕	㉖	㉗	㉘			
1	アラムシロガイ			●		●	●	●		●	●				●				●		●	12	
2	イシマキガイ		●	●					●	●	●		●					●			●	8	
3	イナザワハベガイ					●					●								●			3	
4	ウミナメクジ																					3	
5	ウミナ		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●					●	●	●	●	15	
6	クリイロカワザンショウ																	●		●		2	
7	クリイロカワザンショウ属																					□	1
8	サツマクリイロカワザンショウ																			●		2	
9	シボリガイ										●	●										5	
10	ツメタガイ								●	●												5	
11	ヒモイカリナマコツマミガイ																			●		1	
12	フトヘナタリ																	●				2	
13	フレイトゲアメフラン				●														●	●	●	4	
14	ホソウミナ			●									●					●	●	●	●	7	
15	マルウズラタマキビガイ	●		●		●		●		●	●	●	●				●	●	●		●	11	
16	ミヤコドリガイ					●	●					●										3	
17	カワザンショウガイ科											□										1	
出現種数		1	2	5	2	5	3	5	4	9	4	1	0	1	0	6	4	8	1	5	17		

注) □: 種まで同定されておらず、ウェルカムリストには該当しないが、クリイロカワザンショウ、カワザンショウガイと同じ分類群(カワザンショウガイ科)を参考として記載している。なお、出現種数には含まない。



図5 ウェルカムリストのCランクの巻き貝類の出現状況(令和6年度)

5. アマモ場等調査

アマモ場を造成している地点等では、アマモ場の生き物について調査を実施しました。

アマモは海草の一種で、波が穏やかな、太陽の光が届く浅い砂地の海辺に生えます。アマモがたくさん生えている場所を「アマモ場」と呼びます。「アマモ場」は小さな魚の隠れ処になったり、魚やイカが産卵する場所になります。そのため、「海のゆりかご」とも呼ばれます。

男里川河口干潟では90種の生物が確認され、巻き貝類と植物が最も多く19種、次いで魚類が17種でした。尾崎海岸では107種の生物が確認され、海藻類が最も多く24種、次いで植物が22種、巻き貝類が16種でした。波有手海岸では98種の生物が確認され、巻き貝類が最も多く26種、次いで植物が24種、海藻類が17種でした。西鳥取海岸では108種の生物が確認され、植物が最も多く27種、次いで海藻類が25種、巻き貝類が16種でした。箱作自然海岸では62種の生物が確認され、植物が最も多く22種、次いで海藻類が17種、魚類が6種でした。

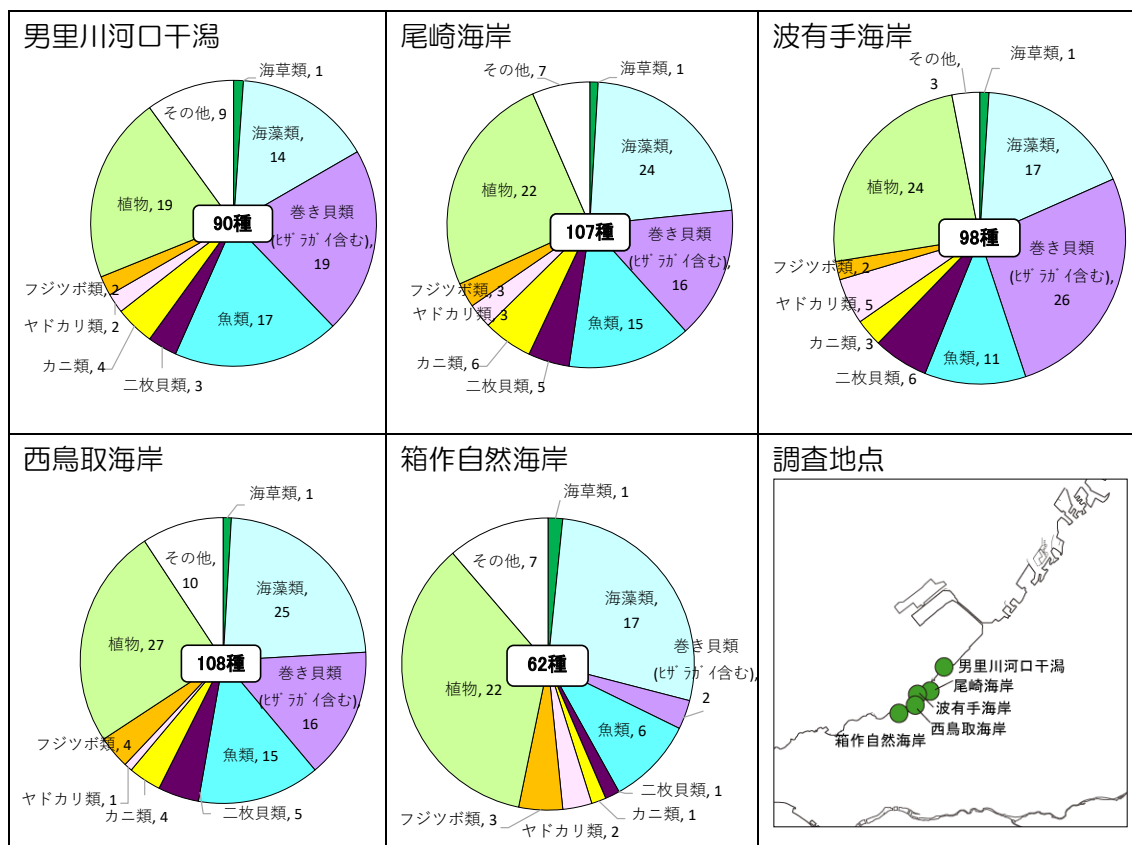


図6 アマモ場等調査の生物確認状況（令和6年度）

7. スナメリ調査

5月22日に図7に示す経路で調査を実施しました。

今回の調査では、阪南市沖で4群5頭を確認しました。

かつて瀬戸内海には多くのスナメリが生息していましたが、現在ではほとんど目にする
ことがなくなりました。

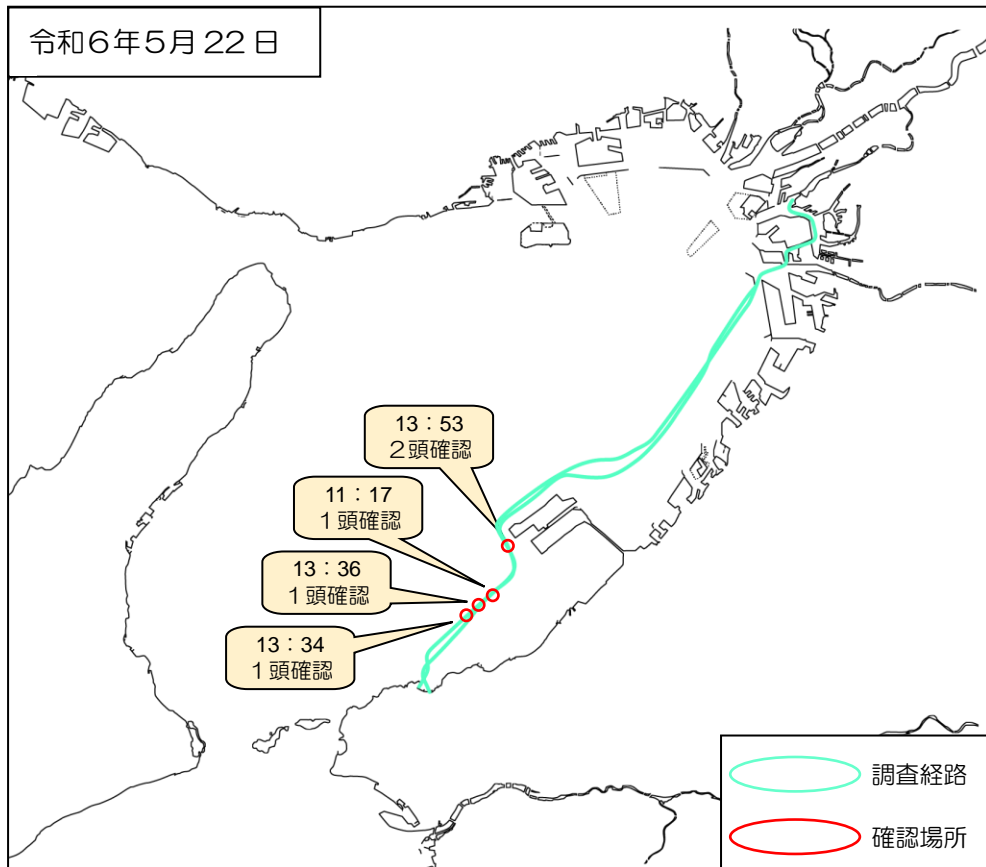


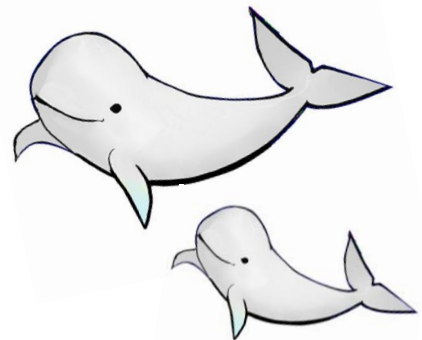
図7 スナメリ調査の経路と確認状況（令和6年5月22日）

【スナメリとは？】

水産庁のレッドデータブックに掲載されています。

- 英名：Finless porpoise
- 学名：*Neophocaena asiaeorientalis*
- 地方名：ナメ・ナメリ など
- 分類：クジラ目ハクジラ亜目 ネズミイルカ科
- 体長：最大2m程度
- 大阪湾におけるスナメリの生態的位置づけ：

スナメリの生息は健全な沿岸生態系のひとつの指標



スナメリ

【変更履歴】

2026.3 P02 コメントの変更
2026.3 P07 表1（5）の差し替え
2026.3 P19 付表1（1）の差し替え
2026.3 P20 付表1（2）の差し替え
2026.3 P23 表の差し替え